

三重県立津高等学校 2年 中嶋 梨帆「私の大好きなひとびと」

私の通う高校は学校教育の一環として、学校内での授業や部活動だけでなく、校外で学ぶ機会を生徒に与える学校です。私は高校に入学してから、幸いにもその機会をたくさん頂き、様々な場所を訪れ、様々な人と話し、学びを得てきました。熊野市二木島町という漁村に滞在したり、鳥羽市の離島の医療の実践を現地で学んだり、名張市や津市の鉄道の歴史を探究したりと、何度も三重の各地に足を運びました。そこには、私が17年間三重で暮らしてきても知らなかったような、魅力的な食や風土があり、そしてそれを愛し守る人がいました。魚の漁に使う縄を手編みし、毎日朝早くに船に乗り込む漁師さん。豊富な医学知識とテクノロジー、そして住民との連携で僻地医療を支える医療従事者の方々。利用者の減少が続く鉄道路線を地域の力で存続させ、さらなる魅力を創出させようとしている、沿線住民のみなさん。年齢も性別も異なる人々が、三重というキャンバスを、自分の想いや力で彩っていくような、そんな温かさや力強さに、私は胸を打たれました。それと同時に、今までこの素晴らしい三重の歴史を紡いできてくださった方々のために、そしてその三重を未来へつなぐために、行動したい、と強く思いました。そう思ったのをきっかけに、私は、地域の商店街を盛り上げるアイデアを創り出す高校のゼミに参加したり、津市の都市づくりに関するワークショップで様々な年齢の方と議論を重ねたりしました。その中で、「中嶋さんの意見、いいね！」「若い人でここまで考えているのはすごい！」などと言っていたとき、自分自身が三重を創っている感覚がありました。仲間と想いを共有し、お互いを必要とする、そんないわば「居場所」のようなものが、三重を愛する人々のコミュニティにはあります。三重の魅力を受け継ぎ、創り、そして未来につなぐ、そのための仲間がたくさんいる三重に、私はしていきたいです。